

「頭がさえた状態を保ち、油断なく見張ってください」

「頭がさえた状態を保ち、油断なく見張ってください」。ペテロ第一 5:8

144 番の歌 報いを見つめて

何を学ぶか*世界の出来事をしっかり見張りつつ、バランスの取れた見方を保つにはどうしたらよいでしょうか。どうすれば自分に注意を払えますか。時間を有効に使うために、どんなことができるでしょうか。この記事ではこうした点を考えます。

1. イエスは弟子たちに終わりがいつ来るかについて何と言いましたか。どんな警告も与えましたか。

イエスが亡くなる何日か前、4人の弟子たちはイエスに「体制の終結のしるしは何ですか」と尋ねました。（マタ 24:3「教えてください。そのようなことはいつあるのでしょうか。あなたの臨在と体制の終結のしるしは何ですか」）弟子たちは、ユダヤ人の体制がいつ終わるのかを知りたかったようです。それに対してイエスは、ユダヤ人の体制だけでなく、現在の「体制の終結」についても教えました。その終わりがいつ来るのかについて、イエスはこう言いました。「その日や時刻については誰も知りません。天使たちも子も知らず、父だけが知っています」。そして弟子たちに、「目を覚ましていなさい」，「ずっと見張っていなさい」と警告しました。（マル 13:32-37 その日や時刻については誰も知りません。天使たちも子も知らず、父だけが知っています。33 ずっと見ていて、目を覚ましていなさい。あなたたちは、定められた時がいつかを知らないからです。34 それは、家を離れて外国へ旅行に行く人が、奴隷たちに権威を与え、それぞれに仕事を委ね、戸口番にはずっと見張っているようにと命令するのに似ています。35 それで、家の主人がいつ帰って来るか、夜の初めか、夜遅くか、夜明け前か、あるいは早朝かを知らないのですから、ずっと見張っていなさい。36 主人が突然に来てあなたたちが眠っているところを見つけるということのないためです。37 私があなたたちに言っていることは、全ての人に言っているのです。ずっと見張っていなさい」）

2. 1世紀のクリスチャンがずっと見張っている必要があったのはどうしてですか。

2 1世紀のユダヤのクリスチャンはずっと見張っている必要がありました。命が懸かっていたからです。イエスは、ユダヤ人の体制の終わりが近づいたことをどのように見分けられるかについて、こう言いました。「エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たなら、その時、荒廃が近づいたことを知りなさい」。この言葉の通りになった時、弟子たちはイエスの命令に従って「山に逃げ始め」なければいけませんでした。（ルカ 21:20, 21 エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たなら、その時、荒廃が近づいたことを知りなさい。21 その時、ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい。都の中にいる人はそこを出なさい。田舎にいる人は都に入ってはなりません）エルサレムがローマ軍に滅ぼされた時、イエスの命令に従った人たちは生き延びることができました。

3. この記事ではどんなことを考えますか。

3 今私たちは、邪悪な世界が終わろうとしている時代に生きています。それで頭がさえた状態を保ち、油断なく見張っている必要があります。この記事では、①世界の出来事をしっかり見張り

つつバランスの取れた見方を保つにはどうしたらよいか、②自分に注意を払うためにどんなことができるか、③残された時間を有効に使うためにどうしたらよいかを考えます。

世界の出来事を見張りつつ、バランスの取れた見方を保つ

4. 聖書の預言がどのように実現しているかに関心を持つべきなのは どうしてですか。

4 私たちは、聖書の預言が今の世界でどのように実現しているかに関心を持っています。イエスは、サタンの世界が終わろうとしている時にどんなことが起きるかを教えました。（マタ 24:3-14 イエスがオリーブ山の上で座っていると、弟子たちが自分たちだけで近づいてきて、言った。「教えてください。そのようなことはいつあるのでしょうか。あなたの臨在と体制の終結のしるしは何ですか」。4 そこでイエスは言った。「誰にも惑わされないように気を付けなさい。5 私の名を使う人が多く現れ、『私がキリストだ』と言って多くの人を惑わすからです。6 あなたたちは戦争の音や戦争の知らせを聞きます。動揺しないようにしなさい。これらのことは必ず起きますが、終わりはまだなのです。7 国民は国民に、王国は王国に敵対して立ち上がり、あちらこちらで食糧不足や地震があります。8 これら全ては苦しみの激痛の始まりです。9 その時、あなたたちは苦難を味わい、殺されます。私の名のために全ての国の人々から憎まれます。10 またその時、多くの人が信仰を捨て、互いに裏切り、憎み合います。11 多くの偽預言者が現れ、多くの人を惑わします。12 不法なことが増えるために、大半の人の愛が冷えます。13 しかし、終わりまで耐え忍んだ人が救われます。14 そして、王国の良い知らせは、全ての国の人々が聞けるように世界中で伝えられます。それから終わりが来ます。）ペテロも、信仰を強く保つために預言の実現に注意を向けるようにと言いました。（ペテ二 1:19-21）それで、私たちにとって預言の言葉はいつも確かなものとなりました。預言の言葉は、暗い所で輝くランプのように皆さんの心の中を照らします。夜が明けて明星が昇るまで、皆さんがそれに注意を払っているのは良いことです。20 すでにご存じの通り、聖書の預言はどれも個人的な解釈に基づいてはいません。21 どの預言も、人間の考えによって語られたものではありません。人が聖なる力(*)に導かれて(d*運ばれて)、神からの言葉を語ったのです）聖書の巻末の書も次のような言葉で始まっています。「イエス・キリストによる啓示。これは神が、間もなく必ず起きる事柄をご自分の奴隷たちに示すため、イエスに与えたものである」。（←啓 1:1）それで、私たちは世界の出来事や聖書の預言の実現に注目します。兄弟姉妹との会話の中で、そうしたことが話題になることもあるでしょう。



聖書の預言について話題にする時には、どんなことに気を付けるとよいですか。（5節を参照。）*写真や挿絵：（上）ある夫婦がニュースを見ている。集会の時に、そのニュースについての個人的な解釈を話している。（下）ある夫婦が「統治体からの話」を視聴して、聖書預言の最新の理解に付いていくようにしている。伝道で、忠実で思慮深い奴隷が準備している出版物を渡している

5. 聖書の預言について話題にする時には、どんなことが大切ですか。（写真も参照。）

5 聖書の預言について話題にする時には、臆測で話さないようにしましょう。会衆の一致を乱さないためです。例えば、政治指導者たちが紛争の解決や平和と安全の実現について語るかもしれません。それを聞いて、これはテサロニケ第一 5 章 3 節人々は、「平和だ、安全だ!」と言っている時に、突然滅ばされることになります。妊婦に起こる陣痛と同じように突然で、彼らは決して逃れられませんの実現だ、と決め付けてしまわないようにしましょう。エホバの組織から与えられる最新の情報に付いていくことが大切です。兄弟姉妹と会話する時、そのような情報に基づいて話すなら、会衆のみんなが「同じ考え方で」一つにまとまることができます。（コリ 1:10兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって勧めます。皆さんが語る事柄は一致しているべきです。分裂があってはなりません。同じ思い、同じ考え方でしっかりと団結してください;4:6さて、兄弟たち、私は皆さんのために、こうしたことを私とアポロに当てはめて(*置き換えて)論じてきました。「書かれている事柄を越えてはならない」という点を学んでもらい、皆さんが思い上がって人をひいきしたり見下したりすることのないためです)

6. ペテロ第二 3 章 11-13 節からどんなことを学べますか。

6 ペテロ第二 3:11-13 これらのものは全てこのように溶解するのですから、自分がどんな人になるべきかを考えてください。聖なる振る舞いをし、神への専心を行動に表し、12 エホバ(*)の日が来るのを(d*日の臨在を)待ち望み、それについていつも考え(*それを切望し/d 早め)ましょう。その日に天は燃えて滅び、さまざまな要素は極度の熱で溶けます。13 しかし、私たちが神の約束によって待ち望んでいる、新しい天と新しい地があります。そこには正しいことが行き渡りますを読む。私たちは聖書の預言に注意を向けつつ、バランスの取れた見方をする必要があります。ペテロは、「エホバの日が来る[こと]についていつも考えましょう」と言いました。でもそれは、ハルマゲドンの「日と時刻」を知るためではありません。その時まで「聖なる振る舞いをし、神への専心を行動に表」すためです。（マタ 24:36 その日と時刻については誰も知りません。天使たちも子も知らず、父だけが知っています。ルカ 12:40 あなたたちも用意をしていなさい。思ってもいない時刻に人の子は来るからです）正しい行いをし、エホバへの愛の気持ちからエホバに仕えることが大切です。そのためには、自分に注意を払う必要があります。

自分に注意を払う

7. 自分に注意を払っていることをどのように示せますか。（ルカ 21:34）

7 イエスは弟子たちに、世界の出来事だけでなく、自分にも注意を払うようにと教えました。そのことはルカ 21 章 34 節とはいえ、食べ過ぎや飲み過ぎや生活上の心配事(*暮らしのための心配事/日常生活の心配)で心が圧迫されないよう注意していなさい。そうでないと、その日が全く突然に訪れますから分かります。（読む。）私たちは自分の行動や態度に注意を払う必要があります。エホバとの絆を弱めるようなものにいつも警戒し、危険に気付いたならすぐに退けましょう。そうするなら、エホバからいつまでも愛していただくことができます。（格 22:3 聡明な人は危険に気付いて身を隠すが、経験のない人たちは進んでいって当然の報い(*罰)を受ける。ユダ 20, 21 しかし、愛する皆さんは、極めて聖なる信仰によって自分を力づけ、神の聖なる力(*)に導かれつつ祈ってください。21 私たちの主イエス・キリストの憐れみによる永遠の命を待ちながら、神に愛され続けるためです。)

8. パウロはどんなことを教えましたか。

8 パウロも自分に注意を払うようにと教えました。例えば、エフェソスのクリスチャンにこう言いました。「自分の歩み方をしっかり見守りましょう。賢くない人ではなく賢い人のように歩[んで]ください」。(エフエ 5:15, 16) それで、自分の歩み方をしっかり見守りましょう。賢くない人ではなく賢い人のように歩み、16 時間を有効に使って(*良い時を買い取って)ください。今は悪い時代だからです) サタンはエホバと私たちの友情を壊そうとしています。それで「いつでも、エホバが何を望んでいるかを見極めましょう」。(エフエ 5:17) もう無分別なことをしてはなりません。いつでも、エホバ(*)が何を望んでいるかを見極めましょう) そうすれば、サタンからのどんな攻撃にも立ち向かうことができます。

9. エホバが何を望んでいるかを知るにはどうしたらよいですか。

9 聖書には、エホバとの友情を壊しかねないものが全て挙げられているわけではありません。それで、聖書にはっきり書かれていないことについて良い決定をするには、「エホバが何を望んでいるか」を知る必要があります。そのためには、聖書を定期的に学んでじっくり考えることが大切です。エホバが望んでいることを理解し、「キリストの考え」に自分を合わせるなら、聖書に細かなルールが書かれていない場合でも「賢い人のように」行動することができます。(コリ 2:14-16) しかし、罪深い欲望に従う人は、神の聖なる力による事柄を受け入れません。その人にとっては愚かなことだからです。実際、その人はそうした事柄を知ることができません。それを調べるには聖なる力が必要だからです。

15 一方、聖なる力に導かれる人は全ての事柄を調べます。そして、その人自身はどんな人からも調べられません。

16 「エホバ(*)の考えを知るようになって、その方を教えられる人などいるでしょうか」。とはいえ、私たちはキリストの考えを知って(*と同じ考え方をしています) エホバとの友情を壊しかねない危険の中には、気付きやすいものもあれば、気付きにくいものもあります。

10. どのような危険に注意する必要がありますか。

10 どのような危険に注意する必要があるでしょうか。異性に対するなれなれしい態度、食べ過ぎや飲み過ぎ、人を傷つけるような話し方、暴力的なテレビや映画、ポルノなどです。(詩 101:3) 私は無価値なものを目の前に置かない。正しいことからそれていく人たちの行いを憎む。その人たちとは関わらない(*そうした行いが私にくっつくことはない)) サタンは私たちとエホバとの友情を壊す機会をいつも狙っています。(ペテ 5:8) 頭がさえた状態(*鋭敏な感覚/冷静さ)を保ち、油断なく見張ってください。敵である悪魔が、ほえるライオンのように歩き回って、誰かをむさぼり食おうとして(*むさぼり食おうと探して)います) それで気を付けていないと、ねたみや不正直や食欲、憎しみや誇りや怒りといった種を心の中にまかれてしまうかもしれません。(ガラ 5:19-21) さて、罪深い欲望から出る行いは明らかです。それは、性的不道徳(ギ語ポルネイア)、汚れ、恥知らずな行い(*ギ語アセルゲイア)、20 偶像崇拜、心霊術(*魔術/薬物の使用)、敵意、争い、嫉妬、激怒、不和、分裂、分派、21 ねたみ、酩酊、ばか騒ぎなどです。こうした事柄について私はすでに警告しましたが、あらためて警告します。こうした事柄を習慣にする人が神の王国を受けられることはありません) すぐに大きな影響が出ないとしても、こうした種をそのまま放っておくなら、やがて成長して深刻な問題につながってしまいます。(ヤコ 1:14, 15) 人はそれぞれ、自分の欲望に引かれて惑わされる(*餌によるかのように捕らわれる)ことにより、試されるのです。15 欲望は膨れ上がった(d*身ごもった)時に罪を生みます。そして、罪は犯された時に死をもたらします)

11. 気付きにくい危険にはどんなものがありますか。それに気を付けるべきなのはどうしてですか。

11 気付きにくい危険の 1 つは悪い交友です。次のような場面を考えてみてください。あなたはエホバの証人ではない人と一緒に働いています。エホバの証人に良い印象を持ってもらいたいと思

って、親切にしたり助けてあげたりします。時々ランチに誘われ、一緒に食べるようになります。その回数が次第に増えていきます。話していると下品な話題になることもあり、初めは聞かないようにしていましたが、だんだんと気に留めなくなっていくます。そのうちに飲みに誘われ、一緒に行くことにします。過ごす時間が増えるにつれて、考え方も似ていきます。こうなると、行動も影響を受けて、じきに同じようなことをするようになります。もちろん、私たちは全ての人に親切に敬意を込めて接したいと思っています。それでも、一緒に時間を過ごす人からは大きな影響を受ける、ということを覚えておきましょう。（[コリ一 15:33](#) だまされて(*思い違いをして)はありません。悪い交友は良い習慣を台無しにします(*道徳心をむしばみます)）イエスが教えたように自分に注意を払い、エホバの基準に従わない人と必要以上に親しくならないようにします。（[コリ二 6:15](#) キリストとベリアル(どうしようもないという意味のへ語に由来。サタンのこと)の間にどんな調和があるのでしょうか。クリスチャン(*忠実な人)はクリスチャンではない人と何を共有する(*どんな分け前を持つ)のでしょうか) 危険に気付いて、それをきっぱり退けるのは大切なことです。

時間を有効に使う

12. イエスの弟子たちは、体制の終わりが来るまでどんなことをする必要がありましたか。

12 イエスの弟子たちは、体制の終わりが来るまで何もしないで待っていればよい、というわけではありませんでした。イエスから、良い知らせを「エルサレムで、ユダヤとサマリアの全土で、また地上の最も遠い所にまで」伝えるようにと言われていたからです。（[使徒 1:6-8](#) しかし、聖なる力があなたたちに働く時、あなたたちは力を受け、エルサレムで、ユダヤとサマリアの全土で、また地上の最も遠い所にまで、私の証人となります）これは本当に大きな仕事でした。弟子たちはこの仕事に打ち込んで時間を有効に使いました。

13. 時間を有効に使うことが大切なのはどうしてですか。（[コロサイ 4:5](#)）

13 [コロサイ 4:5](#) 会衆の一員ではない人と接する際にはいつも賢く行動しましょう。時間を有効に使って(*良い時を買い取って)くださいを読む。自分に注意を払うことには、時間の使い方を考えることも含まれます。「思いも寄らないこと」が誰にでも起きるからです。（←[伝 9:11](#)）突然、命を失うことさえあります。



どうすれば時間を有効に使えますか。（14-15 節を参照。）

14-15. どうすれば時間を有効に使えますか。（[ヘブライ 6:11, 12](#)）（写真も参照。）

14 どうすれば時間を有効に使えるのでしょうか。エホバの望むことを行い、エホバとの絆を強めることができます。（ヨハ 14:21 私のおきてを受け入れてそれに従う人は私を愛しています。さらに、私を愛する人は父に愛されます。そして私はその人を愛して、自分のことをはっきり知らせます）「しっかり立って、動じることなく、主の活動をいつも活発に行ってください」。（コリ 15:58 それで、私の愛する兄弟たち、しっかり立って、動じることなく、主の活動をいつも活発に(*たくさん)行ってください。皆さんが知っているように、主のために働くことは無駄ではないのです）そうすれば、この体制の終わりが来る時、後悔することはありません。たとえ終わりの前に命を失うとしても、やり残したことがあると感じることはないでしょう。（マタ 24:13 しかし、終わりまで耐え忍んだ人が救われます。ロマ 14:8 生きるのならエホバ(*)のために生き、死ぬのならエホバ(*)のために死ぬのです。生きるにしても死ぬにしても、私たちはエホバ(*)のものです）

15 現代でも、イエスは世界中で行われている伝道活動を監督しています。組織を通して伝道の方法を教え、必要な出版物やツールを与えてくれています。（マタ 28:18-20 イエスは近づいて、こう話した。「私には天と地における全ての権威が与えられています。19 それで、行って、全ての国の人々を弟子としましょう。父と子と聖なる力の名によってバプテスマを施し、20 私が命令した事柄全てを守るように教えなさい。私は体制の終結までいつの日もあなたたちと共にいるのです」）では、私たちにはどんなことができるのでしょうか。聖書の真理を伝えたり教えたりする活動を一生懸命に行います。この体制の終わりが来るまでずっと見張っているようにします。ヘブライ 6章 11、12節 私たちは、皆さん一人一人が同じ勤勉さを示し続けて、希望に対する揺るぎない確信を最後まで保ってほしいと思っています。12 怠けたりせず、信仰と辛抱のゆえに約束のものを受ける人たちに倣ってほしいのです。の言葉を自分に当てはめ、希望を「最後まで」しっかり持ち続けるようにしましょう。（読む。）

16. 終わりが来るのをどんな態度で待ちたいと思いますか。

16 エホバは、サタンの世界を終わらせる日と時刻をすでに決めています。その時が来たら、エホバは聖書に書かれている預言を全て実現させます。私たちは終わりがなかなか来ないと感じることがあるかもしれませんが、でもエホバは、「遅くなることはない」と約束しています。（ハバ 2:3 この幻は定められた時のためのもので、終わり(*実現)に向かって急いでおり、偽りではない。たとえ遅れるとしても(*遅れているように思えても)、待ち続けよ(*心から待ち望め)。必ずその通りになるからである。遅くなることはない！) ですから、「エホバに目を向け続け.....救いの神を辛抱強く待」ちましょう。（ミカ 7:7 しかし私はエホバに目を向け続ける。私の救いの神を辛抱強く待つ。私の神は聞いてくださる）

どのように答えますか

1. 世界の出来事を見張りつつバランスの取れた見方を保つには、どうしたらよいですか。

・S04-05 私たちは世界の出来事や聖書の預言の実現に注目するが、こうしたことを話題にする時には、会衆の一致を乱さないために臆測で話さないようにする。エホバの組織から与えられる最新の情報に付いていき、兄弟姉妹と会話する時、そのような情報に基づいて話すなら、会衆のみんなが「同じ考え方で」一つにまとまることができる。

・S06 ペテロは、「エホバの日が来る[こと]についていつも考えましょう」と言ったが、それは、ハルマゲドンの「日と時刻」を知るためではなく、その時まで「聖なる振る舞いをし、神への専心を行動に表」すため。正しい行いをし、エホバへの愛の気持ちからエホバに仕えることが大切。

2. 自分に注意を払うためにどんなことができますか。

・S07 私たちは自分の行動や態度に注意を払う必要がある。エホバとの絆を弱めるようなものにいつも警戒し、危険に気付いたらすぐに退ける。

・S08 自分の歩み方をしっかり見守る。サタンはエホバと私たちの友情を壊そうとしているので、いつでも、エホバが何を望んでいるかを見極める。

・S09 異性に対するなれなれしい態度、食べ過ぎや飲み過ぎ、人を傷つけるような話し方、暴力的なテレビや映画、ポルノなどの危険に注意する必要がある。サタンは私たちとエホバとの友情を壊す機会をいつも狙っていて、気を付けていないと、ねたみや不正直や貪欲、憎しみや誇りや怒りといった種を心の中にまかれてしまうかも。すぐに大きな影響が出ないとしても、こうした種をそのまま放っておくなら、やがて成長して深刻な問題につながる。

・S10 気付にくい危険の1つは悪い交友で、エホバの基準に従わない人と必要以上に親しくならないようにし、危険に気付いて、それをきっぱり退けるのは大切。

3. 時間を有効に使うにはどうしたらよいですか。

・S12 イエスの弟子たちは、良い知らせを「…また地上の最も遠い所にまで」伝える大きな仕事に打ち込んで時間を有効に使った。

・S13-14 突然命を失ったり、思いも寄らないことは誰にでも起きるので、エホバの望むことを行い、エホバとの絆を強めるようにする。

・S15 イエスが世界的な伝道活動を監督して組織を通して伝道の方法を教え、必要な出版物やツールを与えてくださっている。そうした備えを活用して、聖書の真理を伝えたり教えたりする活動を一生懸命に行い、この体制の終わりが来るまでずっと見張っている。

139 番の歌 新しい世界を見つめて

△ 世界の出来事をしっかり見張りつつ、バランスの取れた見方を保つにはどうしたらよいでしょうか。どうすれば自分に注意を払えますか。時間を有効に使うために、どんなことができますでしょうか。この記事ではこうした点を考えます。

△ 写真や挿絵: (上) ある夫婦がニュースを見ている。集会の時に、そのニュースについての個人的な解釈を話している。(下) ある夫婦が「統治体からの話」を視聴して、聖書預言の最新の理解に付いていくようにしている。伝道で、忠実で思慮深い奴隷が準備している出版物を渡している。

△ (ペテロ 5:8) 頭がさえた状態*を保ち、油断なく見張ってください。敵である悪魔が、ほえるライオンのように歩き回って、誰かをむさぼり食おうとして*います。

または、「鋭敏な感覚」，「冷静さ」。

または、「むさぼり食おうと探して」。